

文献検索サービスの導入と 卒業論文における引用文献の推移

田村有香
高知リハビリテーション学院図書室

背景と目的:

高知リハビリテーション学院(以下本学院)は平成10年10月より校舎が高知市から土佐市へ移転し、それまで利用者は専修学校の学生でありながら、併設する短期大学図書館内でサービスを受けていた。しかし、移転後は蔵書数約10000冊、雑誌タイトル数60という小規模図書室になったため、種々の面で不便を強いられるようになった。その後、文献検索サービスの拡充など図書室の機能向上に努めてきたが、どんなに便利な機能を備えていても、それが実際に利用者の役にたっていないのであれば意味がない。そこで今回、図書室の機能向上は利用者にとどのような影響を与えているのかを、学生が最も図書室を利用したと考えられる卒業論文集の分析を通して考察した。

方法:

移転前年にあたる平成10年度以後5年間の理学療法学科卒業論文集を調査対象とした。引用文献・参考文献の中から雑誌論文のみを抽出し、以下の点について調査した。

1. 本学院図書室所蔵文献と学外所蔵文献の割合
2. 文献検索サービスの導入時期と引用文献の推移
3. 理学療法学科4年次生の相互貸借サービス利用率の変化

結果:

- 1) 引用・参考文献に占める本学院図書室所蔵文献の割合は移転前は77%に対し、5年後には67%と減少傾向にあった。
- 2) 文献検索サービスの導入時期と引用文献の推移の関連を見た場合、文献検索サービス拡充後、総文献数の増加と文献に占める学外文献の割合が増加した。
- 3) 理学療法学科4年次生の相互貸借サービス利用率は文献検索サービスを拡充後増加傾向にあった。

考察:

文献検索サービス導入後に総文献数の増加と学外文献の増加、相互貸借サービスの利用率増加を認めたことから、サービスの導入が卒業論文作成にあたっての文献調査の量的、質的改善に寄与したものと考えられた。しかし、一論文当たりの引用文献数が、3文献未満に留まっている学生も26%を占めおり、より多くの学生に文献検索サービスを効果的に利用していただけるよう努力する必要があると考える。